

# 都立小宮公園のワダソウ観察会

2019.4.15

この観察会報告は、2019年2月19日に逝去した故辻 和男氏に捧げます。氏がお元気であればこの観察会の幹事役であったので、病床から幾たびもメールにより、小宮公園の情報を頂いた。

JR八王子駅改札口に9時30分に集合し、路線バスに3駅乗り10分ほど歩いて小宮公園に到着。公園のサービスセンター前で短時間のミーティングをして観察を開始する。

「しろはらの小道」に入ると右手の林床で瑠璃色に輝くフデリンドウが出迎えてくれた。転じて左側の林床に目を凝らして探すと、4・5m先の枯葉が少なく土壌が見える林床に草丈10cm前後で、直径1cmほどの白い花を1・2輪つけたワダソウが群生していた。足元にも所々に咲いており皆さん写真を撮った。ワダソウ (*Pseudostellaria heterophylla* (Miq.) Pax) はナデシコ科ワチガイソウ属で、茎下部の葉腋に閉鎖花を付けるようなので、いつか観察したい。

まずは、辻さんがこの観察会の目的とした、開花したワダソウを参加の皆様じっくりと観察して頂き、ほっとした。

次の「おながの小道」ではワダソウ、チゴユリ、ミミガタテンナンショウ、マルバスマミレが、そここちに咲いていた。チゴユリはエングラ一分類体系ではユリ科であったが、新しいAPG分類体系ではホウチャクソウ等と共にイヌサフラン科に移動した。チゴユリは、ナルコユリ、アマドコロ(以上APGではクサスギカズラ科)などと似ていると思っていたが、花や花序を見ると確かに違っているようにも思える。イヌサフラン科は世界に15属約275種生育しているそうであるが、日本にはチゴユリ属だけである。

「おながの小道」から「かわせみの道」を登り「ひばりの小道」ではヤマツツジ、クチナシグサ、イヌザクラ、ニガイチゴ、キジムシロ等観察して、頂上付近の広い草地に着き「たんぼぼの小道」を歩く。この草地は、カントウタンポポ、ヤハズエンドウ、オオイヌノフグリ、タチイヌノフグリ、ツボミオオバコ、タチツボスミレ、ジュウニヒトエ、スズメノヤリ、カキドオシ、ハナヤエムグラ、ハルガヤ等が群生しているお花畑であった。昼食後、山頂付近で開花していた大木のオオヤマザクラを勉強して、「うぐいすの小道」を降りながら、クサソテツ、イヌシデ、クマシデ、ウラシマソウ、キランソウ、葉を揉むとゴマの香りがするゴマギ等を観察した。14時にバス停八王子郵便局前で解散した。(篠原康之記)

参加者36名 観察指導：佐々木シゲ子 担当：○篠原康之、遠藤康彦、佐々木シゲ子

(観察種の詳細な目録は、紀行文とともに2020年5月発行予定の「横浜植物会 年報49号」に掲載いたします。)



フデリンドウ (リンドウ科)



ワダソウ (ナデシコ科)



ワダソウの群生



ゴマギ (ガマズミ科)